

令和7年度 第2回熊本県糖尿病療養指導士研修会

集合研修（報告）

主催(共催) 日本病態栄養学会/熊本県糖尿病療養指導士会/
ノボルディスクファーマ株式会社

日時 令和7年12月21日(日) 8:55~12:25

会場名 済生会熊本病院 4階コンベンションホール

◇講演1『肥満症、糖尿病診療の最前線 ～多職種で取り組むチーム医療』

講師:熊本大学大学院 生命科学研究部 代謝内科学講座 准教授 瀬ノ口隆文先生

今回の研修は、肥満と糖尿病、肥満症・糖尿病治療の意義、多診療科・多職種で取り組む肥満症治療の内容でした。日本人の肥満は増加しており、熊本県でも肥満症に関連するメタボリック症候群や糖尿病(予備軍含む)が全国で上位であることに触れられました。肥満症・糖尿病治療の意義としては、減量は目標ではなく手段、治療の目的は健康障害の改善、合併症の予防であり、2024年は肥満症治療薬に関連し肥満症治療の転換期であったと話されました。症例を交えながら熊本大学病院肥満症治療センターの取り組み、オベスティグマへの配慮について話があり、多診療科・多職種で取り組む肥満症治療についての現状を知ることができました。

◇講演2『糖尿病と肥満症治療における栄養士の関わりについて』

講師:熊本大学病院 栄養管理部 栄養管理室 吹原美帆先生

熊本大学病院での肥満症治療センターにおける取り組みと管理栄養士の関わりについて、お話いただきました。肥満症治療の外来診療では、基本治療プログラムとして食事療法・運動療法・行動療法・心理支援などがあり、管理栄養士は月1回程度栄養指導、体組成評価、治療経過に関する相談などを実施されていました。その後6ヵ月経過後に次の段階として積極的な内科治療(薬物療法)や外科的治療(胃切除術など)の選択がなされており、その後も定期的な栄養指導を継続されていました。“薬をもらったら終わり・手術をしたら終わり”ではなく、正しい食行動の獲得を目指すよう指導されているそうです。また、管理栄養士間、医療者間において共通の資料やツールを使用する事で情報共有もなされており、患者自身が実行可能な段階から目標に向かって支援していくことが大切であると話されていました。

◇講演3『肥満症の糖尿病患者に対する運動療法の実際』

講師:朝日野総合病院 理学療法士 池田祐太郎先生

肥満症患者の身体的特徴、運動療法の原則、運動療法の実際についての内容でした。肥満による関節への負荷増大やアディポカインによる関節の炎症により変形性膝関節症の発症・進展に影響を与え、サルコペニアに伴う肥満の場合は、運動機能低下及び生活習慣病のリスクが増大するということでした。肥満糖尿病患者の運動療法を効果的に進めるためには、健康障害(運動器・循環器・脳血管等の健康障害)に配慮し、安全限界と有効限界の範囲内で行う事、また運動療法の原則(F:頻度、I:強度、T:時間、T:種類、V:運動量、P:漸増)に基づいて行うことが重要と話されていました。

◇講演 4『肥満症治療薬と糖尿病治療薬』

講師：陣内病院 薬剤部 薬剤部長・治験室 室長 吉田陽先生

肥満症治療薬と糖尿病治療薬については、今までの肥満症治療薬と比較しGLP-1RAやGLP-1/GIPRAが使用できるようになったことで肥満症治療は大きく変わりました。

糖尿病治療薬と肥満症治療薬は目的が大きく異なりますが、GLP-1RAとGLP-1/GIPRAに関して成分共通の製剤があります。GLP-1RAやGLP-1/GIPRAは有用な肥満症治療薬であるが、肥満症の治験データより、副作用及び重篤な副作用について報告があっており、胃腸障害はかなりの頻度で現れるそうです。2 型糖尿病患者と違い、肥満症治療のために通院する患者は病院慣れしてない場合も多いため副作用の聞き取りは大切であり、副作用や投与終了後に関しての指導が重要であるとお話がありました。

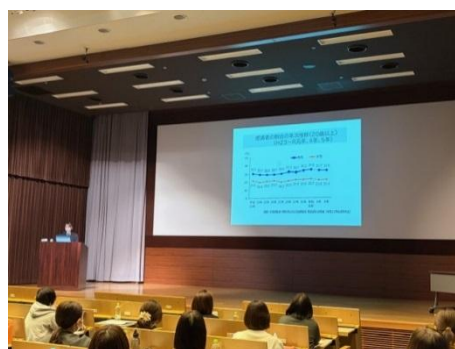
高い体重減少効果が期待される新薬の登場で、肥満症治療の選択肢が広がりました。肥満症治療への関心はますます高まると思います。

ご講演いただきました瀬ノ口先生、吹原先生、池田先生、吉田先生
貴重なご講演をありがとうございました。

次回の研修会は、2026 年 6 月を予定しております。



瀬ノ口先生



吹原先生



池田先生



吉田先生